

区民会議・子ども部会摘録

日 時 平成 18 年 12 月 8 日（金） 午前 10 時～12 時
場 所 宮前区役所第 4 会議室
出席者 目代部会長、川西委員、末澤委員、福本委員、
事務局 企画調整担当原主幹、中山主査、東主査、成沢職員

開会

情報公開条例の説明

松本委員欠席の報告

会議目標の確認：これまで討議してきた宮前区の子どもの現状、目指す方向性、課題等を受け、具体的な解決策について討議し、今月 22 日に開催される次回の区民会議で報告ができるようにする。

配布資料の説明：事務局

- ・ 資料 1：これまでの議論を踏まえ、事務局と部会長が事前相談して整理した方向性、現状、課題。
- ・ 交通インフラ・道路の整備、医療費助成等については、全市的な予算や政策的な問題であるため、区民会議で議論すべき問題ではないと考え、解決策については割愛した。

宮前区子育てまちづくりフォーラムについて：事務局報告

12 月 7 日に開催され、100 人以上が参加して好評を得た「宮前区子育てまちづくりフォーラム」とその上半期に実施した 3 回のワークショップ、1 回のシンポジウム、アンケート調査などから出された子育てにかんする課題と解決の方向について、佐々木参事から報告があった。（詳細は別紙資料参照）

原主幹 会場からの意見が多く、商店街関係者の積極的な発言もあった。事前問合せも多く、地域のニーズや問題意識の高まりを参加者全員が感じていたと思う。うまく解決策がここで議論できるとよい。

議事：課題解決に向けた具体的取組について（意見交換）

目代部会長 情報の提供、場の確保が現場で強く求められているというのが皆さんの共通認識だと思う。

川西委員 地域子育て支援センターで何か新しい会が開かれたと聞いたが？

原主幹 菅生と鷺沼のセンターで試行的に土曜開設が 10 月に行われた。これまで「平日だけの開設では父親が参加できない」「土日の居場所がない」などの意見が出ていた。試行開設の結果、父親の参加があり、アンケート結果でも土日開設のニーズが明らかになった。

川西委員 地域子育て支援センターについて教えて下さい。

原主幹 宮前区内で、公設 2 ヲ所、民設 2 ヲ所の 4 ヲ所が平日（月～金）の 4 時半まで開設されている。幼稚園や保育園に入る前の親子が集まる場となっている。

福本委員 現在地域において、子育て関連の主な情報源は社協と学校関係になっており、町会を通じて子育てに関する情報があまり入ってこない。町会は地域の隅々まで流れる情報網を持っている。町会の掲示板や回覧板などをもっと利用すべきだ。

「子育て」の文字が大きく入っていれば、子育て中の親の興味を引き、目を通してもらうことができる。今の情報はあまりにも字が細かい。もっと見やすい形を意識すべきだ。

困ったときの相談先として地域の民生委員がいるが、高齢者関係に主眼をおきがちで、子育てに関する相談窓口になっていない現状があるのではないかと？

目代部会長 たしかに民生委員は今まで高齢者中心だった。これからは子育て支援にも積極的に関わっ

てもらいたいということで、昨日のフォーラムにも多くの民生委員の方に参加していただいた。意識をもってもらえれば、変わっていくだろう。

川西委員 方向性は良いが、課題がまだ網羅、整理しきれていない。

資料1の解決すべき課題、地域社会全体での子育ての中に「更なる問題」という表現があるが、どのような問題を前提として想定しているのかわからない。

情報には、相談だけでなく、行政の事業情報などいろいろある。今の親世代がどのように考え、どんな支援を求めているのか、見えるようにならなければ、何が世代間ギャップで、何が必要なのかわからない。情報を発信するだけでなく、情報を収集するしくみを持つことも重要であり、整理が必要だ。

担い手減少への対策は、宮前区らしい育児施策の目玉になるのではないかと。宮前区は20年前から子育て支援団体が自主的に生まれ、活動が引き継がれてきた地域だが、近年お客様意識だけの利用者ばかりで、スタッフが疲労している実情がある。本来は、母親自身や家庭内で育児力をつけることも重要であり、その意味でのエンパワーメントの方法も考えていくべきだ。

どんな子に育ててほしいかは、親なら必ず考えることだ。市では「生きる力を身につける」という言葉があるが、宮前区においてはどうか、みんなで考えてゆくような何かがあってもいい。

区民会議全体で整理した地域社会における課題一覧で、「子育てサポーターシステムの長期計画づくり」の「場づくり編」は盛り込まれているが、「カリキュラム編」が落ちてしまっているように感じる。

個別に活動している所はたくさんあるが、みんなで一堂に会して話し合う場がない。

子育て中の親を見ていると、二人目以降の子育てが物理的に難しい。様々な場や施設も年齢制限で、上と下の子どもと一緒に連れて行けないことがある。既存の施設の使い方を見直すことも必要だ。

誰がどのように使うのか、施設の運用設計を中間支援組織が中心となって協議できる場があると良い。次から次へと新しい施設がつくれる時代では無い中、既存の施設の利用を見直し、可能性を最大限に活かす方法を探る。すぐできることではないか？

公園の有効活用は、他の部会でも議論になっている「世代間交流」の解決策ともなりうると思う。

末澤委員 子育てフェスタでのアンケートで、「転入してきた時に情報が入ってこなかった、既存のグループの輪に入りにくかった」という回答があった。施設に来た人に職員が声をかけたり、誰でも参加しやすいイベントを行ったり、相談しやすい雰囲気をつくることなども重要であり、施設の有効活用につながる。母親の中には相談先がわからなかったり、聞いていいのかわからない人もいる。

子育てに関する情報を収集、一元化した、わかりやすい情報発信を、活動者も、利用者も求めている。相談内容とその対応の事例をデータベース化して、どこで相談しても、つながるしくみづくりができるとうい。

ニーズも変化していくものなので、調査も必要だ。例えば、現在の公園の利用状況など、公園の有効活用の為にも把握したい。

目代部会長 子育て中の母親は「居場所がほしい」という声が多い。転入してきた母親は積極的でないとなかなか友達ができない。子育てに関する相談は例えば離乳食の開始時など、実はたわいのない相談も多い。たまり場ができれば、お互いの子供を見て安心するし、情報交換が自然に行われ、友達もできる。誰でも集える場を母親に提供していきたいが、まだまだ空白地域が多い。

川西委員 なぜ空白地帯ができるのか？

目代部会長 例えばこども文化センターは歩いて行ける範囲ということで中学校区単位であるが、それだけではとても足りない。わくわくの午前利用を交渉したが駄目だったと聞いた。あかちゃん広場を運営しているカンガルークラブという団体では、町内会館などの施設利用を開拓している。今後も空

き店舗などが利用できると良い。

川西委員 中学校区単位で空白地帯ができてしまうのであれば、小学校校舎などの利用ができると良い。そのためには、何が支障となっているのかまず明らかにしていく。そこが分かれば歩み寄りもできる。ただ開放を求めるのではなく、市民が運営面などに関わっていくことも必要だ。

福本委員 施設開放は直接その施設の長に話を持っていくほうがうまくいく。

憩いの家など、大人のサークル活動と子どもの遊び場が併用されている施設では、大人のサークルの方が強くなり、子ども達に「うるさい」と苦情を言って、子ども達がのびのび遊べなくなる例もある。こども優先の日などを決めると良い。

川西委員 施設利用の見直しが必要だ。どういう施設がどのように使われているのか、一元で見えていない。協議会なり中間支援組織なりができて、その調整ができると良い。

目代部会長 ある民生委員から、地域のビルの1階の店舗が長いこと空いたままで、なんとか利用したい思いをずっと抱えているが、家賃などが高くどうにもならないという声を聞いた。

福本委員 有馬に市の公設市場の跡地があり、建物がまだ残っている。図書館になるという話があるが、なかなか進んでいないようだ。けっこう広い建物だ。

川西委員 今ある公的な施設はみんなが狙っている。その調整が大切だ。

福本委員 次の利用や建て替えが始まるまでの期間限定、1年や2年だけでもいいので、利用できると良い。市の所有財産が、全くの空き家状態なのはもったいない。

川西委員 「地域による公園の管理運営の促進」については、苦労している町会もあるようだが、場の確保の意味でも、重要視すべきだ。他の先進事例など勉強するのも良い。

宮前区には公園がたくさんあるが、見通しが悪いなど、安全・安心の点で不安な公園が非常に多い。立正大学の小宮先生が提唱していらっしゃる地域安全マップでは、「みえにくく、入りやすい場所」は、子どもが危険なことに遭いやすい場所だそうだ。市の危機管理センターの方も「公園が実はすごく危ない」とおっしゃっていた。まず公園をみんなが安心できる場にしていきたい。

安全・安心のマップづくりワークショップはぜひ全ての地域に体験してもらいたい。子ども達からの意見ができれば、妥協点も見つかりやすくなり、町会も動きやすい。

まず、地域の子育て関係者、子育て中の親や団体、民生、社協、施設関係者などが一堂に関わる協議会を立ち上げることが一番必要ではないか。そこで、必要な調査や討議、ワークショップなどを進めていけると良い。

目代部会長 地域の人や子育て中のお母さんたちを巻き込んで話し合う場をつくっていくのが良いとわたしも思う。子育て支援センターの実情、特にコーディネート機能はどうなっているのか？

末澤委員 子育て支援センターのイベントは事前申し込み制なことがあり、ふと思いついた時や、通りがかりでは、参加できないこともある。施設に入ることはいつでもできるが、一人で入っていくのは厳しいかもしれない。最初から3~5人くらいのグループで来ている例が多い。

福本委員 地域の公園でも同じ。3~5人で来ているグループごとに固まる傾向があり、新しい人が入っていくのは難しい。誰か世話役のような人がいて、うまく声をかけ、引き込んでいく形があると良い。

川西委員 今の若い世代は自分から入っていくことを恐れ、他者からの声かけを待っている。また、あまり顔見せをしないものに対して、協調感が低い。行政の担当者や地域で活動する人は顔見せ、声かけを意識して積極的にやる必要がある。「顔見せ」「声かけ」はキーワードになると思う。

宮前区の特徴として転入出が多いということがあり、母親が一人ぼっちになりやすい。このような母親を効率よくつかまえられるのは保健所だ。転入者やその子供の年齢等の情報もわかる。検診時に

子育てに関する情報提供ができれば、非常に良い。例えば保育園の先生方が検診に、地域毎の日代わりでいいので、顔を出し、情報の紹介や声かけができないか。情報発信は「ここに集まれ」ばかりでなく、集まっている場に出向く、出前の形での情報発信が日常的にできると良い。

また子育て中の母親から、地域全体でもう少し、次世代を担う子供を暖かい目で見守ってほしいとの意見が出ている。「バギーで電車に乗ったら、白い目で見られた。」などの体験を聞いた。子育てに関する知恵の伝承も含めて、こうした啓蒙も地域に伝えていくべきことであり、カリキュラムの中で考えるべきだ。

顔見せ・声かけ、出前、リーダー要請、世代間交流が、双方の視点からできると良い。

情報の発信になるか、収集になるかわからないが、ポータルサイトの利用はできないか？一般市民の声が集まるようになってきているようなサイトはあるのか？

また、世代間キャップや地域の子どもへの目線の話がでたが、これには、おじいちゃんの声や力をうまく引き出せるかどうかが鍵だと思う。おばあちゃんは孫の世話でかridされてお、経験的に現状を掴んでいる人もいるが、おじいちゃんは「子育てはこうあらねば」という考えや思いを、秘めたままの人が多く、語らせるといろいろ出てくる。宮前には元気なおじいちゃんも多いので、その人たちが活かされれば、大家族的な雰囲気もできるのではないか。

福本委員 おじいちゃん・おばあちゃんにとっては、普段子供たちが親元を離れているため、孫はたまにしか会えない存在であり、その時間的制限や、子にできなかったことを孫にはという思いから、つい孫に甘くなりがちである。子に文句を言われても、孫の笑顔があれば良いになってしまう。普段の距離があることも世代間ギャップを大きくしている。

川西委員 身内はともかく、特に他人様の孫世代にはどう関わっていいのかわからないというのが本音ではないか。

目代部会長 子育てサロンなどに、男性の民生委員さんが来ると非常に人気があり、子どもが集まる。普段男性と会う機会がなく珍しいのかもしれない。互いに多少会話をする機会はあるが、それが目的にはなっていない。

川西委員 昔の大家族は、喧嘩や衝突もしており、コミュニケーションを通して、互いが譲歩したり、学び合っていた。いろんな価値観が子供の周りあるのが、自然で健全。子育てサロンに民生委員が来ると、いたれりつくせりで、全てやってくれてしまい、かえって参加者が子育ての意識を持ってないという批判を聞いたことがある。

また一方で、面倒を見てください、これをやって下さいというような仕事の頼まれ方は、ボランティアの意識としては、不満がたまっていく。

福本委員 例えば子育ての集まりに呼ばれたら、私だったらまず「何をやるのか」と、集まっている子供の世代などに適応した遊びやものづくりを考える。区民祭での竹細工は、子供にかなり人気がある。予めやることを決めていくのがいいのか、その場の雰囲気に馴染みながらやるのか、どちらがいいのかは、今のお母さんたちと考え方が異なるかもしれない。

末澤委員 母親としては、その集まりで何をするのか、何を教えてくれるのか事前にはっきりしているほうが参加しやすい。ただ「おじいちゃんが遊んでくれる」では駄目。目に見える、体を動かすような遊びをおじいちゃん世代に教えてほしい。おじいちゃん世代は子供と同じ目線で遊んでくれる。

目代部会長 場の確保で、自主グループや地域の諸団体が集まって協議会の様な組織ができて、話し合える場ができればいいという話が出ていたが、この内容や場所についてはどうでしょうか？

末澤委員 “子支連”の役割とはちがうのでしょうか？

目代部会長 実際に地域で活動している人がネットワークに関わる必要がある。子支連にはカンガルークラブなども参加しているが…

福本委員 ある程度現実的にやってきた人、既存の自主団体を機軸にそこに肉付けしていく形がやりやすいのではないかと。行政の助けは必要だが、行政が中心や主体になると、組織が堅苦しくなってしまうと思う。

目代部会長 この協議会がうまく機能すれば、参加する自主団体も情報交換ができ、活動上の悩みなどを共有できるのではないかと。自主保育のお母さんたちからよく、町会と連携したいという声を聞くが、これもこの協議会に地域がうまく入っていくことによって解決するのではないかと。

公園は広い意味で地域の交流の場になりうる。高齢者部会でも、体操をする場になったらいいなど公園の活用の仕方を検討しているようだ。赤ちゃんから、高齢者まで使いやすい公園を考えていこう。

福本委員 今公園を見ると、外周にフェンスのあるところと無いところがある。フェンスがあるところは、親が比較的安心して親同士で会話して交流も進んでいるが、フェンスがないと、親は常に子供を追っかけてあっちへ行ったり、こっちへ来たりしている。公園の設備等によって、人が集まる公園と集まらない公園がでてくる。

目代部会長 協議会で行政と自主グループ、地域の3者が連携していく。ここで地域というのは、いきなり町会ではなく、社協や民生委員のイメージだ。一番中心になるのは実際に育てている母親や、実際に活動をしていらっしゃる方。そのサポートシステムをつくっていく。青少年施設や子育て関連施設など既存の場の見直し、親の育児力の向上、担い手の育成などのカリキュラムをつくって、出前の講座なども構築できると良い。

川西委員 一般の声を取り込めるサイトがあると良い。年配の男性でも最近ネットを使われる方も多い。最近私もブログをはじめたが、結構男性の書き込みがある。

目代部会長 大体の方向性は出たと思う。あとは事務局と相談してまとめ、報告させていただく。集える場を、地域のお母さんたちと運営していく。それを第1歩としてやっていきたい。

(以上)